

会 議 録

1 会議名

令和6年度 第6回和田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

自主的な審議

（1）自主的な審議の進め方について（公開）

3 開催日時

令和6年11月20日（水） 午後6時30分から午後7時27分まで

4 開催場所

ラーバンセンター 第4研修室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：秋山三枝子（会長）、横田朋巳（副会長）
阿部和子、近藤 浩、近藤美絵子、高橋武弘、西片正夫、牧田 恵、
山岸幸三、渡邊正昭（欠席4人）
- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 大島所長、小池副所長、石黒係長

8 発言の内容

【石黒係長】

- ・ 泉委員、齊藤委員、角谷委員、西田委員を除く10人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることを報告

【秋山会長】

- ・ 会議録の確認：高橋委員に依頼

— 次第2 自主的な審議（1）自主的な審議の進め方について —

【秋山会長】

次第2 自主的な審議（1）自主的な審議の進め方についてに入る。

事務局より説明を求める。

【石黒係長】

・資料No.1により説明

【秋山会長】

委員の皆さんで町内会長を経験された方、今やっという方がいらっしゃると思うが、私も過去に1回だけ町内会長の代理として要望書に対し市から回答をいただく場に参加したことがある。とてもボリュームのある要望事項に対して、市からもかなりの数の職員が来て1項目ずつ回答をするというやりとりを見させていただいた。上越市の全部の地域に対して、各要望に市が回答するという。今回なぜ町内会長会の要望内容を皆さんに共有したかということ、私たちが地域協議会の中で出し合った意見と重複するものもあったかというところを確認するため、事務局に調べていただいた。

今ほどの事務局からの提案は、駅周辺の開発や道路といったハード整備的な面の項目が町内会長会の要望にたくさん挙がっていることから、そこは町内会長会に委ねて、地域協議会は別のソフト的な面から地域の課題や活性化を考えて行けたらどうかというものである。前回事務局がまとめた地域活性化に向けたアイデアの一覧を見ながら、町内会長会と私たち地域協議会の議論の視点を少し分けていくという方向性について意見があれば、何でも結構なので発言願いたい。

【近藤浩委員】

要望書についてだが、おそらく毎年毎回同じような要望がずっと繰り返されているところがあるのではないか。実際の実現率はどれくらいなのかこの場に市の職員がいるので聞きたい。当然優先事項などもあるかと思うが、例えば、私の町内では通学路の確保について歴代の町内会長がずっと要望していると思う。当然難しい。民家もある。上越大通りの東側の通学路が確保されていないため代替の道路を作っ

たらどうかということをおそらく毎年毎年要望していると思う。そういうところで、どういった算段になって、どういった感じで実現しているのか、ざっくりお聞かせいただければと思う。

【大島所長】

私のわかる範囲での答えになるが、令和6年度と7年度の2年分の要望書について項目を見てみると、資料No.1には書いていないが継続要望というものがあり、それが今おっしゃられた何年かにわたって継続して要望されているものだと思う。特に重点要望事項を見るとほぼ継続要望になっている。やはり要望事項自体が結構大きな課題が取り上げられているので、なかなか単年度で完了とかそういうものではなく、年度ごとに進捗の状況について今こういう状況になっている、来年度はここをこのようにしたいとお伝えするというように、一つ一つが大きい案件であるためになかなか完結というところにはすぐにはならないのかと思う。その中で、要望を受けた場合に、その年度ごとの進捗状況をお答えしているのが実態かと考える。

【牧田委員】

この地域協議会ではソフト的な内容の検討といっても、具体的にどういったことなのかわかりづらいのでそこを説明願う。

【大島所長】

具体的な説明になるかどうかかわからないが、例えば、地域でのいろいろな活動が人手不足などによって難しくなっている現状に対し、どうやったらそうした活動を続けていけるかを検討する。例えば、そのような団体同士の連携を図る中でやっていけないとか、そういった調整というか繋がりをどうやって作っていったらそれができるか、それによって今までできなかったことが何かできるのではないかということをお話し合うことが考えられる。例えば、牧田委員から意見のあった運動会の関係についても、現状でいろいろ課題があってもうまくできないのであれば、他の地域の事例なども参考にしながら、実施主体をどういうふうにしていったらよいかなどを話し合ってもらっていただくこともソフト的な取組の一つかと思う。私が今思いつくだけのことなのでこれだけではもちろんないが、そういった視点で皆さんから話し合いをしていただくと違うことが見えてくるのではないかと考える。

【秋山会長】

私たち地域協議会の中でいろいろと意見を出してきたことは、どちらかというソフト的な視点多かったかと思っている。その中にポプラ並木や歩道の話とか、町内会長会のほうでも出されているものがあつたということで、これまでの方向性とそんなに変わるものではないという受け止め方を私はしているのだからいかか。

発言がないので、町内会長会から要望で出されているような項目のことにも少し意識を置きながら、これまで皆さんが発言してくださつたようなアイデアなどを中心に進めていけばよいと私としては思っているがいかか。そのように整理するともう少しテーマを絞り込んでいけるかと思う。

今日は進め方についての提案を募り、意見交換を行う回であるので、それについて何か意見はないか。まだあまりよくわからないような反応だが、少し進めさせていただいて、また少し違うというところがあつたら意見をいただきたい。

もう一つは、前回事務局が皆さんの意見を分類し整理してくださつた一覧について、ほぼ意見交換する場面を持たずに終わってしまった。今日は改めてこれを見ながら、まとめていただいた石黒係長から少し整理しながら思つたりしたことがあつたら、発言いただけると助かる。

【石黒係長】

こちらのようによまとめさせていただいたのは、皆さんのご意見をまず羅列した中で何となくの分類が見えてきて、大きく地域防災、観光スポット、環境整備、交通環境、地域の一体感、高齢者福祉、次世代育成、空き家活用、地域の声、その他広域的なボランティアグループの設立と市の全体の課題を考えるとといった区分でまとめた次第である。

意見というよりも地域で実際やられている事例も含まれている。皆さんからの発言や提案を机上に残すため、すべて一覧に落とし込む意図でまとめた。

【秋山会長】

意見をたくさん出していただくところまではやれるが、それをどうやって分けるかはなかなか難しい部分があつて、それを地域防災、観光スポット、環境整備等々に分けていただいたのは新鮮であつた。

これまで挙げられた意見等のうち、これは自主的審議の項目としてすごく大事ではないかなとか自発的に自分が関わって何とかしたいという思いのような項目があったら意見をいただきたい。今日欠席の西田委員に代わって私のほうで発言させていただくと、西田委員は、防災士会和田支部を立ち上げたいという意志をお持ちで今回提案された。

【山岸委員】

防災士会に関して昨夜集まりがあって、和田支部を作ろうかという話は徐々に進んではいるがなかなか前にはいかないと感じた。1年先か2年先かわからないくらいの話である。

【秋山会長】

実は以前私も防災士会に関わっていた方にこれまでの経緯をいろいろお伺いしたことがある。各町内会からの依頼で防災士の資格を取得するための講習を受け、防災士になっている方々がいて、町内会へのフィードバックとして防災訓練の時などに学んだ知識を生かされているという。町内会との繋がりが強いこと、また、防災士個人で広くネットワークを作っていることを踏まえると、なかなか防災士間のネットワークを作るのは難しいのではないかという所見をいただいた。一方で、時代も少しずつ変わってきているので、やりたいという人の思いがあればそれはそれで検討したらどうかというアドバイスをいただいた。

【山岸委員】

今言われたように、町内会から頼まれた人たちが町内会の費用で防災士になっていると思う。実際支部を作ってあるところもあるが、昨日の話を聞いていると、和田支部作るのはまだ難しいという印象を受けた。

【渡邊委員】

うちの町内会でも去年1人防災士になっていただいたが、その際に特に防災士会に加入してもしなくてもよいということだったので、防災士会には入っていない。現段階でどこかに加入するとすればどこに入るのか。わかれば教えていただきたい。

【山岸委員】

市の防災士会がある。加入すると会費が発生するが、何かあるとそちらからも連

絡が来る。

【渡邊委員】

和田支部というのはどういう位置付けになるのか。

【秋山会長】

恐らくその位置付けが難しいので、もう少し時間がかかるということなのか。西田委員は自発的に防災士の資格を取られて、そういう方々も当然たくさんいらっしゃってネットワークを持たれているので、防災のいろいろな情報は重層的に、町内会もあれば自発的な方々が繋がったネットワーク、例えば和田区で複数いたら和田支部になるのか、そういうイメージなのかと思っている。

【山岸委員】

そういう団体を作って、その中で勉強会をしていきたいということが第一である。それでないと防災士になっていても町内の役にも立たない。それが1番のネックで、皆さんでいろいろ相談をしている。

【渡邊委員】

備考に書いてある令和5年度には春日地区で支部が立ち上がったということで、これはあくまでも自主的なその地区の団体ということで、市と直接はリンクしていないということか。例えば、和田区で各町内にいる防災士がネットワークを作って、勉強会をしたりするということかができるればよいと思う。せっかく防災士になっていただいても、今活動らしい活動はほとんどしていただいていないので、それは町内の責任でもあると思うが、そういったネットワークができると災害時でもいろいろ活用できたりしてよいことだと思う。今の段階では無理だとおっしゃっておられるが、地域に防災士が何人くらいいるのかも把握して、立ち上げていく方向でやっていただけたらと思う。

【秋山会長】

アイデアを出した方自身が自分でやりたいという意志をお持ちの項目は、西田委員のこの1点だけかと思う。誰かがやってくれてこうなったらいいなというものはあるが、自分でやりたいというのはこの防災士会和田支部なのでまだ調整が必要かと思うが、前向きにバックアップできるような、今渡邊委員がおっしゃったような

ことも考えていけたらよいかと思う。今日ここで結論を出すものではないので、検討していく項目としてこれはありかと思った。

【山岸委員】

支部を作ると市の防災協会からお金が出る。いろいろな行事をやっても和田区の個人単位では全然お金が下りて来ない。そこから違う。

【秋山会長】

お金が出るのは嬉しいが、そのお金に見合う何かをやらなくてはいけないという縛りも出てくるかと思うが。

【山岸委員】

会議のお茶でも対象である。

【秋山会長】

防災士会の話にいつてしまったが、私個人的には上越妙高駅でよく農産物の市が開催されていたのが最近あまり目にしなくなり寂しい。誰がどんなふうにされていたかという経過は全然知らないが何かご存じか。

【山岸委員】

あれはJ Aでやっている。年に何回もないが、夏のモロコシが取れた頃などそんな時に出ている。通常は今のJ Aバンクの前でやっている。やはり、通路を借りる手続きがいろいろあって面倒である。

【秋山会長】

交通環境のところではバス路線のことについて、これは前の地域協議会の中でも出ていた意見かと思う。

前回、どちらかという前向きではなくネガティブな発言が多かった運動会の活性化など、反省としては自分の気持ちもどうしてもネガティブな発言のほうに向いてしまって、会議が終了した後に寂しい気持ちになった。8月のファシリテーション研修では、進行役はできればポジティブな声を拾うように、発言をポジティブな方に向けていくようにと研修を受けたのに、どんどん自分が後ろ向きになった。こんなことをやっていきたいという前向きなアイデアは、なるべく実現していく方向を考えながら、この場で議論していきたい。

【近藤浩委員】

11月17日にファミリー綱引き大会がリージョンプラザであって、今年で41回目だが、大和Aチームが優勝し非常に盛り上がった。ただ、応援者の数は大和、和田は非常に少なかった。一体感を醸成するにはやはりスポーツの力というか、先ほどソフト面という話があったが、そこはスポーツや祭りに尽きるのではないかと単純に思っている。

私の町内は今回大和地区の慰労会のホスト町内だったので、終わった後に大和Aチーム、Bチームの選手、体協の役員さんが町内会館に集まって、私の町内の3役、体協の役員が一生懸命おもてなしをし、2時半に始まった慰労会が終わったのが6時半と、もうへとへとになって帰ったが、交流もできたし地域の一体感というものもできた。反省として残るのは、そのPRである。初めて練習の応援から本番と深く関わって、実際に綱を持って参加したわけではないがよい疲労感が残った。

【秋山会長】

私も何度か見させていただいて、すごくエネルギーをもらって燃えるなど思っている。おっしゃったように地元の皆さんに意外と知られていない。リーダー的な役割を担っている方から参加者の確保も難しいと聞く中で、大和Aチーム、Bチームはいつも頑張ってくださって頭が下がる。

【牧田委員】

運動会の話だが、資料No.1には載っていないが提出した時に、例えば、綱引きをこの運動会でもやったらどうかというようなことを記載した。同じように、輪投げ大会を行っている地域もあるようなので、そういったものをこの運動会の中に盛り込んでいったら、一年中楽しめるのではないかと考えて、運動会に盛り込んだつもりだった。運動会にこだわるわけではないが、皆さんが日頃やっていることを、今、近藤浩委員がおっしゃるように、その時に参加できる人ではなくて、もう1回違う場で披露できたらいいかという気持ちもあった。そういったところをお伝えしたくて発言させていただいた。

【秋山会長】

キッチンカーの方にばかり意識が向いていた。運動会に綱引きなどいろいろ提案

してにぎやかな集まりになったらいいと思う。

【阿部委員】

資料No.1でやはり目についたのは観光スポットである。上越妙高駅で降りて、時間があるのでちょっと散歩したいという時に釜蓋遺跡公園を歩いている人もいるが、この一番上に書いてある楽しく歩ける散歩道の整備と出ているが、和田区はやはり矢代川が真ん中で中心かと思う。今、瀬渡橋の所で大きな工事をやっている。あれは県道なので、県の振興局でやっているということだが何の工事なのか。何か碑も動かしたりしてだんだん大きな工事になってきている。

矢代川では樹木などが生えてきたことでだんだん川幅が狭くなり、それが大雨になった時に水害の元になるということで川の整備が問題にされた時があった。直江津のほうでは保倉川で盛んにそう言われて、自然に生えた木が大きく成長してそのままになっていると大雨の時に水害になるので整備してほしいという話があった。そういうことを考えながら、矢代川を見ると工事された反対側も綺麗に整備されている。せっかくあそこに堤防があって散歩道がある。下のほうに行けば、七ヶ所新田に桜の木があって春になるとすごく綺麗だし、上の方も稲荷のもっと上のほうに桜の木があったような気がする。あそこをもっと整備したらもっとたくさんの人が歩くのではないか。今ウォーキングする人たちもだんだん増えているが、そういうコースにもなればよいと考えている。それにはまだちょっと整備が足りない感じがする。

【秋山会長】

阿部委員の今の発想は駅に降り立った人が時間があるから少し散歩とか矢代川の土手を歩けるくらいの楽しい整備という発想か。

【阿部委員】

地域住民がああ道を歩けるようになればよいという思いである。

【秋山会長】

もう一つよいなと思ったのは、裏面の次世代育成の一番下のところに、和田小、大和小の両校の児童を対象にした放課後勉強室等を開催し、子どもたち同士が交流できるとよいというものがあって、実は大和4丁目では町内会館を使って子どもた

ちに無料の学習塾を開いている。始められた町内会長が亡くなられてもその遺志を継いだ皆さんが続けていて、多分20年くらいになるのではないか。子どもたちがいつも勉強している。そことは少し意味合いが違うかもしれないが、小学校の子どもたちは放課後児童クラブがあると思うが、どのようにこの和田区で過ごしているのかと思いながらここも注目したところである。

【横田副会長】

前回から運動会に特化して話が進んでいるが、実際は運動会だけではなくて、次世代育成の分類にある祭りだとか町内会をまたいで子どもたちを集める、さらにその上の高齢者福祉の分類に大人も入って遊べるような場所があるとよいということは、要は人が集まる場所をいかに作ることができるかという内容であると思っている。一つ一つの提案に沿って話をすると、どうしてもそこに焦点が当たってしまうので、人を集めるためにどのように、今あるもので何を一番活用するのがよいのかというところから外れ、その結果の運動会なのかもしれないが、そういう方向で綺麗にまとめてあるがために分散されたかと感じている。そういう意味合いでは、観光スポットで今の遊歩道、散歩道の話も出たが、同じように岡原の交差点周辺の地下道を楽しく歩けるように整備するというのもある。そういう散歩道だったり楽しく歩けるようにいろいろなタイプができたらよいなというの、いろいろなところに渡っていったりするもので、そういう意味では分類してあるが、分類だけで分けるのではなくて、いろいろなところで何かまとめてこういうことやりたい。

先ほどの防災士会の話ではないが、実際なかなか地域協議会でできるわけではないので、協力してくださる団体を見つけてという話にはなるとは思うが、こういうことをやりたいがどこか共有してくれるところはないかという形で進めていくのがよいと思う。

個人的な話だが、コミュニティバスの提案について、妙高市に行って車体に「スクール」とあるバスが走っているのを見るたびになぜこの辺は徒歩通学ではないのだろうと和田区との違いを痛感する。これが今回の協議会に絡むかどうかは別として普段から思っている。

【秋山会長】

人が集まる場所をいかに作るか、楽しく集まる場所を作るかという視点で、様々な事業を見ていくという方法もありかと思った。

もう一つ、次の相談があるのでそちらに移らせていただいてもよろしいか。

勉強会の開催についてだが、今期は新しく委員になった方の割合が多いので、今回も町内会長会の要望書の中身を学ばせていただいたが、委員としての和田区の基礎知識を共有するために勉強会の開催を考えている。最初の頃、和田区のことをよく知らないと言言する委員も複数いた。「和田の歩み」という冊子を読んで、編集に主に関わった方にも話を伺う中で、最初は和田区のことをよく知らない任意の委員数人で和田区のこととこれだけは知っておいたほうがよいということを勉強しようと思っていたが、できれば地域協議会委員の皆さんで共有していくテーマを学んだほうがよいという思いもあり、今日具体的に内容を提示することはできないが、そのような勉強会を地域協議会において開催していくこととしてよいかを今日決めさせていただきたい。「和田の歩み」はすごくボリュームのある冊子で、この中でも内容を絞り込むのはすごく大変かと思うが、今大体1時間で会議を終わるようにしているが、勉強会では講師の方から来ていただいて、お話しいただくとなると1時間半くらいの時間が必要になってくるかと思う。講師の方から30分くらいお話をいただいてやりとりをすると、会議の議題が他に無ければ勉強会だけで終わりでもよいが、何か審議することがあれば1時間半くらいの時間が必要かと思うがいかがか。毎回ということではなく、時々入れるというような形でと思っているが、テーマや時間配分、講師や開催頻度というのは、次回、皆さんにお示しできるように正副会長と事務局で相談したい。その方向性についていかがか。もう十分知っているからよいという意見も承知しているが、勉強会の機会を設けさせていただくということでもよろしいか。

(異議なし)

私自身が一番知りたいということもありそのように進めさせていただきたいと思う。本日の議題はこれで終わりだが、皆さんのほうで何かあれば発言願う。

【高橋委員】

先日上越妙高駅と共に歩む会の会長が大ケヤキだよりを持ってこられた。それを

見るとかなり切ない状況になっているようで、市長が代わって補助金が次第に絞られるということに関して厳しいと言われている。ここでその話をしてよいのかどうかわからなかったが、少し気の毒と思い、やはり共有していただければと思った。

【秋山会長】

上越妙高駅と共に歩む会という団体が今泉城跡の大ケヤキの保存活動を進めていらっしゃる。私も今回ニュースレターを拝見して個人的に思うのは、地域のいろいろな活動を少し見聞きしてきた中では、例えば浦川原に行くと虫川の大杉や稲田にも大ケヤキがあり、そういう保全活動をしている団体はかなりある。市からの補助金が出ているか出ていないかは把握していないが、民間の助成金とかありとあらゆる手を使って必要なときにそのお金を獲得し、ほかにも自分たちで持ち寄るとか協賛金をお願いに足を運ぶという努力をされていることを踏まえると、今回の文面からは何となく全額補助金を求めているような印象を受けたので、それは少し違うのではないかと思った。活動自体は立派で続けていただきたいが、お金の生み出し方についてはもう少し検討する余地があるかと思いながら拝見させていただいた。

この辺の経過をご存じの方やほかに意見のある方はないか。

(意見なし)

これはすごく大事なことなので、議論しないというのではなく地域の宝については今後考えていけたらと思っている。

これまで出された意見については、正副会長と事務局で次回までに整理する。

以上で、次第2 自主的な審議(1)自主的な審議の進め方についてを終了する。

— 次第3 事務連絡 —

【秋山会長】

次第3 事務連絡 に入る。

事務局より説明を求める。

【小池副所長】

- ・今後の地域協議会の日程連絡

令和6年度 第7回地域協議会：12月18日（水）18：30から

第8回地域協議会：1月22日（水）18：30から

会場：ラーバンセンター第4研修室

【秋山会長】

- ・ただ今の説明について質問を求めるがなし
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください